



# 2025 文化祭

—11月6日—

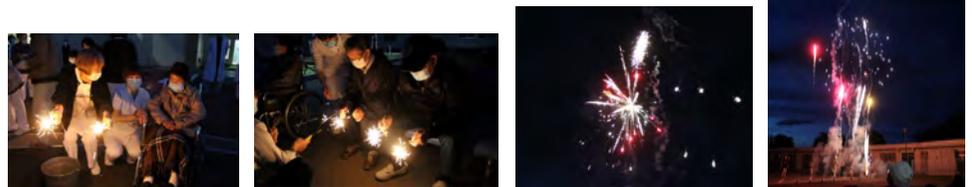


- ・演奏 『一杯のコーヒーから』  
『東京ラブソティ』
- ・合唱 『もみじ』『ふるさと』
- ・マジックショー
- ・ダンス 『恋のパカンス』  
各センター、リハビリ、師長さん達に  
発表を行っていただきました。

## 【展示作品：入所者、職員の商品】



## 【夜の部：花火大会の様子】



## 園内日誌

令和七年 十月～十二月

## 【謝寄贈図書欄】

令和七年 十月～十二月（敬称略）

### 《十一月》

六日

文化祭

収穫祭（抽選会）

『呼華歌劇団』来園

十一月十四日

### 《十二月》

一日

クリスマスイルミネーション点灯式

多磨	東京都	多磨全生園	多磨全生園
菊池	熊本市	菊池恵楓園	菊池恵楓園
愛生	岡山県	長久光明園	長久光明園
青松	岡山県	大島青松園	大島青松園
始良	香川県	星塚敬愛園	星塚敬愛園
ふるさとの紫陽花	鹿児島県	白鳥玲子	白鳥玲子
静岡県	静岡県	静岡県	静岡県

令和8年3月10日 印刷  
令和8年3月20日 発行

発行所 東北新生園楓会(自治会)  
編集所 楓会文化部  
印刷所 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)  
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十八巻第一号……………目次

新年雑感（令和という時代）……………	園長……………	三國潤一……………	（2）
退職のご挨拶……………	総看護師長……………	石井智子……………	（4）
退職のご挨拶と東北新生園での思い出……………	看護師長……………	志和池賀美……………	（7）
随筆「茨城への里帰りの旅」第三部……………	齋藤照雄……………	……………	（10）

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………	佐々木洋一……………	（13）
短歌……………	選者……………	皆川二郎……………	（16）
俳句……………	選者……………	小松温美……………	（18）
川柳……………	選者……………	栗石隆子……………	（20）
令和七年度国立ハンセン病療養所 介護員研修に参加して……………	看護助手……………	鈴木美江……………	（22）
思い出……………	看護助手……………	星寿子……………	（25）
ご挨拶……………	看護助手……………	澤野和子……………	（28）
栄養だより……………	……………	栄養班……………	（30）
四コマ漫画「飲酒運転」「日本人形」……………	……………	太田凛……………	（32）
園内日誌・謝寄贈図書……………	……………	……………	……………

表紙：「春・桜と三重塔」

# 新年雑感（令和という時代）

園長 三國潤一

新年あけましておめでとうございます。

早いもので二十一世紀も四分の一が過ぎ、令和は八年目を迎えました。簡単にこの七年間を振り返ってみたいと思います。

令和元年は東北新生園が八十周年を迎えた節目の年でもありました。

春秋のゲートボール大会、夏の花火大会、自治会旅行、八十周年記念寄席、敬老の集いでの歌謡ショー、そして年末までには前年に建築が始まった新総合診療棟もほぼ完成し、順風満帆とも言える一年だったかと思えます。しかし令和二年、新型コロナウイルスの蔓延で世界は一変しました。園でも感染対策のた

めに各種イベントは中止を余儀なくされ、入所者の皆様には外出制限などのご不自由をおかけする事になりました。幸い当園ではクラスタ発生はなく、感染した方々も無事回復されました。これは入所者の皆様のご協力と職員一同の努力の賜物と考えています。

そして令和四年、冬季オリンピックが終わるやいなや彼の地で戦争が始まり、その後も各地で紛争が続いています。大国に他国が振り回され、これらが端緒となった物価高も収まる気配はなく、今は本場に二十一世紀なかと嘆息を禁じ得ません。暗い話をしてしまいましたが、園では令和

六年に念願だった物故者慰霊塔（三重塔）が竣工しました。これは完全木造で宮大工の技術を駆使して建造されたものです。令和七年度中には付属の東屋・手水舎も完成予定であり、これを以って園で計画されている建造物類は全て整備完了となります。

また、ワクチン・治療薬の開発によって新型コロナウイルスの脅威は当初ほどではなくなり、未だ復活が叶わないものもありますが、各種イベントでは皆様お楽しみいただいているかと思えます。

現時点で令和は新型コロナウイルスと国際紛争、物価高に翻弄されるネガティブイメージの時代になっていますが、これを一変させる可能性を持つものとしてAIが挙げられます。

令和に入ってからAIの進化は尋常ではありません。既に音声翻訳は実用レベルに達し、コンピュータに質問すれば難しい問題でも一瞬で答えてくれます。大学入試の問題な

らほぼ満点を取り、医師国家試験ですら合格点に達するものも現れました。話し手の好みを学習して楽しい会話も可能。絵も描けるし実写のような動画を作れる。人の写真や声を読み込めばそれを元に「その人の姿・声であるでその人のような返答をする」擬似人格すら作成できるようになっています。まだまだ発展途上で一歩間違うと映画「ターミネーター」のようになりかねませんが、うまく進化させる事ができれば、人類の生活が飛躍的に向上する可能性があります。

これは絵空事や他人事ではなく、ハンセン病療養所にも波及し入所者の皆様にとつても小さくない影響をもたらすでしょう。

最後は夢物語のようになってしまいました。新しい流れも取り込みながら、われわれ職員は入所者の皆様が安楽な生活を送れるよう日々邁進していく所存です。

今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

## 退職のご挨拶

総看護師長 石井智子

この度、令和八年三月三十一日をもちまして、定年退職することになりました。

令和六年四月に、東北新生園に総看護師長として赴任し、二年間お世話になりました。

着任した際、最初に三國副園長（現園長）より入所者さんの感染対策について時間を割いて丁寧にご教へいただきました。職員に風邪症状等がある場合は入所者さんとうつさなような接触しない方法を取り、入所者さんとの接触度によって対策を講じています。職員がコロナに罹患した場合は原則十日間、同居の家族がコロナに罹患した場合は十七日間を

とになった入所者さんが、とても喜んでいらつしやる様子を見て、安堵した自分がおりました。二月から入所者さんへの説明や移動するスタッフのことなど綿密に準備が進められたことが大きかったと思いますが、住む環境が変わっても体調を崩すことなく、いつも通りに過ごされている入所者の皆様のご様子には、ほっとすると同時にすごいことだという嬉しい驚きもあります。

集約前には入所者の皆様から、引越しに對する不安を訴える言葉があり、受け持ち看護師・介護員を中心に入所者さんの思いを聞きとり、職員同士で共有しました。引越し後も、受け持ち職員がお部屋を訪問して、入所者さんのちょっとした変化も見逃さないよう気を配りました。徐々に入所者さん同士で談笑する様子などがみられ、新しい環境になじんでいただけたのかなと感じておりました。

原則として部署外で勤務していただいております。

平均年齢九十歳を超える中、お元気な入所者さんたちを感染させないよう、職員は厳しい感染対策をとり、職員及び自らも感染源にならないよう気を引き締め、折りに触れて注意喚起させていただきました。今年はインフルエンザが早い時期から流行し、猛威を振るっておりますが、当園でクラスターにならずに済んでいるのは、職員の皆さんの努力のたまものだと思っております。

さて、令和六年度は第一メープルケアセンター三階の集約という、当園の大きな出来事がありました。五月十四日に三階の入所者さんが一階と二階にそれぞれ引越しましたが、大きなトラブルはなく、その日の夕食は、引越した各階で召し上がっていただくことになりました。ご友人が同じ階に住むこ

しかし看護師長から、三階の部屋を実家と呼ぶ方がいらつしやると聞き、なんとも切ない気持ちになりました。慣れ親しんだ場所や寮友と離れるなど、入所者の皆様には、本当にご心労とご心配をおかけしました。

私が当園に来た頃は、入所者さんは二十六名いらつしやいましたが、今年は十八名となりました。それでも今年の合同文化祭は、入所者さんと職員と一緒にステージで出し物をしたり作品を展示したりと、職員と入所者さんが一緒に楽しめる企画が多く、大いに盛り上がりました。私も今年は看護師長会の一員としてお手なダンスを披露させていただきました、思い出の一つとなりました。

二年間という短い期間でしたが、東北新生園の入所者の皆様の看護に関わることができ、本当に貴重な経験をいただきました。感謝申し上げます。最後になりましたが入所者

の皆様、職員の皆様には健康に留意され、元気な笑顔で過ごしていただけるよう、お祈り申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございます。



## 退職のご挨拶と東北新生園での思い出

看護師長 志和池 賀美

平成二十九年より東北新生園で勤務しております、第一病棟看護師長の志和池賀美です。この度、令和八年三月末をもって退職することとなりました。この機会に改めて自身と東北新生園で過ごした日々を振り返ってみました。

私はお隣の岩手県生まれです。夫が九州の宮崎県生まれのため東北では珍しい名字と名前のために、一度で正しく呼ばれたことはありませんが、お陰様で印象に残るのか顔は覚えていただいています。家は奥羽山脈の谷間にあり、子供の頃は神社や周りの田畑を駆けまわり、夏は川で沢ガニやカジカを捕まえて

冬は雪にまみれて遊んで育ちました。あまりに勉強もせず将来のことも考えていないため、母親から「大人になって食べるのに困らないように手に職をつけなさい。」と勧められ看護師となりました。看護学校卒業後は国立療養所に就職し、その後転勤を経験し現在に至ります。

平成二十九年四月に東北新生園に赴任した時の第一印象は、広大な敷地に良く手入れされた草花や畑があり、その中に一般寮が点在していて自分の育った山間の村とは違い、開放感があつて大変気持ちの良いところと感じました。最初に配属になったのは、不自由者棟の第一メープルケアセンター1・2階で、入所者の皆さんも職員も優しく受け入れて下さり、お部屋に伺った際や行事の時などに昔の園内の様子や子供の頃の体験など様々なお話を聞かせていただきました。普段の入所者さんの様子からは想像ができないような苦労

や経験を知り、入所者の皆さんの気持ちを大事にしながら心穏やかに過ごしていただきたい。そのために、何かできることはないだろうかと考え勤務していました。私一人にできることは限られています。他の職員のみならず力を合わせ少しでも長く入所者の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごすことができるようにしたいと思っております。

東北新生園では今よりも沢山の行事が行われていましたが、一番の思い出は春と秋に開催されていたゲートボール大会です。

大会一ヶ月前から勤務終了後に肩からスティックケースを下げ練習場に集まり、約一時間練習を行っていました。ゲートボール場は一カ所だけでなく大会本番用の広いグラウンドやナイター設備も整っており大変驚きでしたが、その熱の入れようにはもっと驚きました。時には陽が落ちてからも練習していましたので、たまには雨が降ってくれないかな

大変上手で何度も全国大会で優秀な成績を収めた方も多く、入所者の方にお見せするには恥ずかしいプレイもありましたが、炎天下の中応援に来て下さり、ただの一勝を「たいしたもんだ。」と一緒に喜んでくれました。これが癖になり、ゲートボールの季節が来るのがとても待ち遠しく楽しみになりました。

現在はコロナ渦で大会はなくなりましたが、機会があればまたやりたいと思います。

東北新生園では楽しい思い出を沢山いただきましたが、入所者の皆様が望んだ支援が十分できたろうかと心苦しく思っております。東北新生園は大変居心地が良く、気がつく

と九年という長い年月が流れていました。入所者の皆様の笑顔と「どうもありがとう。」「気をつけてお帰りください。」の言葉に励まされ、ここまで頑張ることができました。

入所者の皆様、職員の皆様にはご指導とご

あとお空とにらめっこしたこともありました。また、夕食後に練習風景を見に来てボールを打つコツなど教えて下さった入所者の方もおりました。なんとと言っても、まずは第一ゲートを通らなければお話にならないのですからルールも知らずボールを持つのもスティックで打つのも初めての経験で四苦八苦し、時にコーチから叱咤激励を受けながらも、それでも「アハハッ」、「オホホッ」と笑い合ったり、あさつてに転がっていったボールを追いかけたり楽しかったのを思い出します。星空の下カエルの鳴き声や遠く線路を走る電車の音を聞きながら練習したことが、懐かしく思い出されます。大会当日本番は、職種を超えて職員OBも交えての混合チームでしたが、回を重ねて初めて一勝した時には優勝したかのようになり盛り上がりました。先輩方やOBの方の力が大きかったのだと思います。入所者の皆さんの中にはゲートボールが

支援をいただき大変お世話になりました。遠くの地より皆様のご多幸とご健康を祈念しております。本当に感謝、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

最後に園に来たばかりの頃、ある入所者さんに詠んでいただいた『思い出の詩』を紹介したいと思います。

① 仕合おせにならうと誓ったあの人と

② 劇的にめでたく入所者はれる

③ 皆さんの祝福有難う

平成二十七年七月

秋吉小重子

「茨城への里帰りの旅」第三部

齋藤 照雄

参加者が少ないため、茨城県人会会長T氏とその妻M夫人と私の三人で茨城県の里帰りに。

私の住まいの栗駒寮十五号の前に分館があり、そこで会長が「茨城の里帰りに二泊三日の予定で行って参ります。」と挨拶をして、会長の自家用車で里帰りに出発した。

門を出て、瀬峰から高清水、まだ高速道路は出来ていなかったので国道四号線をひた走り、古川から仙台へ。岩沼で四号線と別れ国道六号線に入る。阿武隈川を渡って、亘理、宮城療養所（現宮城病院）前を通って福島に。

いので、必要なら他から取りますがどうしますか。」と聞かれたが、水戸駅の近くで買いたいものがあるのでそちらで昼食を済ませてきますから、と断りタクシーを呼んでもらい水戸駅へ向かった。

タクシーを降り、まだ時間が早いので映画館で映画を鑑賞し、昼食をとった。目当ての水戸の梅羊羹を十六本買って旅館に戻る折、手に持った羊羹が重く、右に左に持ち替えながら、タクシーを呼び止めるのもままならずに、見送ってしまうのを何度か繰り返し困り果てていたところ、細い路地からタクシーが一台出て来た。呼び止め「良いですか」と聞くと「良いですよ。」の返答。早速乗り込み、「どちらまでですか。」「大工町はわかりますか」「わかりますよ。」「『宝船』の看板から入ってもらいたいのですが。」「『宝船』は知っています。うちがその辺りなので。」と会話を交わすうち、あつという間に『宝船』が見えて

相馬からいわきの久ノ浜に行きそこで昼食をとる。その後茨城に入り、水戸、大工町から『宝船』の看板を過ぎ宿泊場所の清香旅館に到着した。

県の方には、到着後に連絡すると伝えていたので、係官は来ておらず、「私達だけで来ました。」と、会長が受付で挨拶をした。会長は実家が近くにあり「私達は実家で食事を取り、泊まりに戻り、明日の朝はまた実家に行き朝食をとって、十時半にこちらへ戻って来ます。照雄さんには了解をとってありますから私達ふたりはこれから実家へ向かいます。」と出かけて行った。

私はひとり、一献傾けながら夕食をいただき二階の部屋に案内され、煎餅などを頬張りながら、また一献。テレビを観ながら過し、九時に就寝。朝は五時に起床し、六時に朝食をとった。

女将さんから「昼はお食事をお出しできません

来て、旅館に到着した。タクシーを降りると、女将さんと会長夫婦が待っていて「なかなか帰って来ないから心配していたんだよ。」といわれた。『羊羹をこんなに買ってしまつて、タクシーを止める手も上げられずに：』と、ことのいきさつを話した。

その後夕食をとり、三人で二階に上がり床をしいてもらって、色々話したり、テレビを観たりして九時に眠りについた。

翌朝は五時起床、六時に朝食、お別れの挨拶をして九時に旅館を後にした。

来た時と同様に、久ノ浜で昼食をとり、途中相馬の百尺観音を見学。国道六号と別れ岩沼から国道四号線を揺られ、瀬峰に。そして新生園の門をくぐり、栗駒寮十五号前で降車し、分館で会長が帰園の挨拶をして、長かった茨城の里帰りが終わった。

～ 個別支援 ～

お花巡り旅行

宮城県、岩手県、合わせて5か所以上のお花巡りをしました



5月12日 花泉牡丹園



6月25日 あやめ園



7月2日 あじさい園



9月16日 松山コスモス



10月14日 やくらいガーデン

山形の日帰り旅行

— 10月23日 —

訪問先：山形県尾花沢、最上郡舟形町方面



懐かしい蕎麦畑を横に、少し色づき始めた山々を眺め楽しみながらの道中。

昼食には名物の板そばを堪能しました。

物産館や道の駅では、山形の物産品やお土産の買い物を楽しみました。

舟形では、焼きたての子持ち鮎の塩焼きを美味しく頂きました。一番はふるさとの空気は美味しい…また来年も行きたいとの思いを強くした皆さんでした。

新生文芸

詩

佐々木 洋一 選

◇ 入 選 ◇

《心は自由》

芽 生

夢見ることは自由なはずなのに  
夢を語れば「おまえには無理」と否定され  
夢見るよりも「もつと現実を見ろ」と言う  
美しい景色に出会えば  
言葉の泉からあふれ出す想い  
誰かに優しくされたら

嬉しくて伝えたくなくなる喜び

障害の有無や辛さなんて

他人と比べられるものではないけれど

障害があつて気付いたことも

出会えた人もいる

人生に遅いことは無いと思つても

早く出会えていたならと思つた

若い頃には知ることができなかった

他人の厳しさの裏にある思い遣り

優しさに隠れた嫉妬心

無邪気そのままに人を傷付けてしまつて

叱責を受けても

理解できなかったこともあった

それら全てが自分の経験であり

歴史となり積み重なつて今がある

自由にならない身体も現実も忘れ

言葉の泉からあふれ出す想い

伝えたい  
問いかけたい  
形にしたい  
心は自由

難しい言葉を書き連ねることだけが  
全てではない  
簡単でも短くても良い  
自由に思うままに生きれば良い  
感じたことを感じたままに受け止めて  
じぶんの心さえ否定するのはやめよう  
私は私らしく

【選評】

《心は自由》

芽 生

「自由に思うままに生きれば良い／＼私は私らしく」という結論に達するまでの過程が的確にと

らえられている。そこには、作者の明晰な思考や強い意志を感じる。優れた作品といえる。「いつかの記憶」「蝶になりたい」にも確かな力量を感じる。

《語り部のおばばの言う事にや》

齋藤 照雄

この道はどなた様も  
自由に通れる道だそうなら  
いくら自由だからと言って  
ないがしろにしてはいけない  
天からの授かりもの  
昔から世界中の人々が  
この道を通り召されていった  
そこは万国語共通で  
世界中の人々と  
相睦まじく  
和気あいあいと

何の滞りもなく

会話がでる楽園だそうなら

おい、若いの

お前さんもそこへ行く途中だが

この道にはいろんな道もあるんだよ

イバラ道

坂道

うねりくねった道

デコボコ道

平坦な道

いろいろな道を人によつては

長く歩いた道短い道

これは運命が決めるものだから

それに従い

この道を通りゃんせ

そして

転んだら起き

辛い時には齒を噛み唇を噛み

悲しい時には泣き

恥をかきべそをかき

人を憎まず恨まず妬まず

あの楽園に辿り着くまで

ひたすら汗を流せと

おばばは言う

【選評】

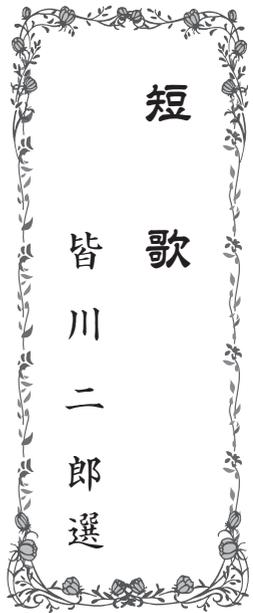
《語り部のおばばの言う事にや》

齋藤 照雄

おばばが若いものに語りきかせる人生訓。世の中このようにはうまくいかないが、ユーモアのこもった齋藤節に、いつのまにか合点してしまう。

# 短歌

皆川二郎選



通する感慨であろうと思われる。

## 歌多 眠寝子

被写体の飛翔を狙う写真家が寒さに耐える  
明けの明星

### 【選評】

明け方、東の空に見える金星、  
いわゆる「明けの明星」を撮影し  
ようとすると写真家が、寒さに耐え  
て被写体の飛ぶのを待っている様  
子が据えられて実感がある。

### ◇入選◇

芽生

懐かしき同級生に会いしとき故郷帰りの過去よみがえる

### 【選評】

しばらく会っていない同級生に、  
故郷に帰った時に会ったことが懐  
かしく、過去が蘇ってくる。故郷  
において懐かしき同級生の友と再  
会することは、幼き事も蘇り本当  
に懐かしいし、その思い出を大事  
にしたい。故郷を思う気持ちも共

## 今野 モトイ

年明けて季節外れのあたたかさ草木や  
花もくるい咲きかな

### 【選評】

今年の年明けは、穏やかな天候  
に恵まれ、平穏な正月であること  
を喜んで迎えることができた。

例年であればまだ咲かない草木や  
花がくるい咲きしているように感  
じられる。という作者の感性に同  
感させられる一首である。また、草  
や木は自然の動きや温かさなどに  
敏感に反応するものであることを  
改めて感じさせられた。

### ◇佳作◇

芽生

春雨に薄紅色の匂い立ち水面に揺れて  
桜花散る

暖かき春の装いもいまだ寒し風に舞う  
花道に去りゆく

ひなあられはじける笑顔わが娘嫁には  
やらぬ親父言い張る



俳句

小松温美選



◇入選◇

齋藤照雄

池の鯉跳ねてここにも春が来た

【選評】

池の辺に佇んでいると、鯉が急に跳ねた。ああ、鯉も動き始める春が来たのだなど、作者は実感して、周りを見渡すのである。

水薫る花は白梅そよと揺れ

芽

生

【選評】

梅が馥郁と香る季節となった。白い梅がほのかに風に揺れている。近くの池の水も香っているように感ずるのだ。

歌多 眠寝子

忘れじの我が住まうは雪国よ

【選評】

自分の住んでいる雪国への愛着が詠まれた。雪国の楽しさも厳しさも味わっている強い気持ちが入り込んでくる。

◇佳作◇

齋藤照雄

思い出にあの娘と片寄せ落葉踏む

虎落笛鳴きやみ夜明け訪れり

散歩道人影もなし冬の陣

豆まきの声あちらからこちらから

故郷からの石垣苺頬張れり

芽生

ツバメ行く雨を感じて軒の下

野芹食む香り拡がる口の中

恵方巻き方角探しうろうろと

池の鯉さくらまとい泳ぎ行く

落ち雛を懐に入れ帰る妻

初雪が降った日時を忘れ去る

歌多 眠寝子



川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《天位》

千 歩

動物の棲家を奪うメガソーラー

【選 評】

新年が明けても冬眠しない熊におどらされていますが、熊もカモシカも据えられたメガソーラーに棲家を奪われたのも、里に出没の原因とも言われています。天候異変や動物の行動等々、みな人間の行為が原因です。

《地位》

齋藤 照 雄

メスに泣き傷に泣かされ五十年

【選 評】

闘病の人生を提出句からよく解りました。この痛みを五七五で吐き出し、耐えてこられたのですね。背に走る冷気を思いながら、気丈に過ごされる日々を思います。

《人位》

芽 生

店先に熊も訪れ閑古鳥

【選 評】

昨年来、熊の出没のニュースに驚かされていますが、アーバンベアと街中にも徘徊しています。お店の自動ドアを開けるので、シヨッピングの足も遠のくでしょうね。

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照 雄

神経痛夜な夜な俺に針を刺し  
身から出た錆だ騒ぐなわめくなよ  
全快を祈ってくれた千羽鶴

長 沼 蓮 花

三十年経っても届かぬ義母の味  
懸賞の牛肉待ちわび年を越す  
食卓に春の味覚が賑やかに  
今年こそ毎年誓うダイエツト

千 歩

兎に届け冬の夜の空に金平糖  
露の臺ここに居るぞと背伸びする  
友去りし思い出開く空ロツカー

芽 生

当たったら絵空事追う宝くじ  
味気ないスマホ見ながら独り飯  
平和慣れ危機感忘れNOマスク

歌 多 眠寝子

趣味の為別の技術が磨かれる  
福袋開けて叫んだ待つて無理

# 令和七年度国立ハンセン病療養所 介護員研修に参加して

看護助手 鈴木美江

令和七年度国立ハンセン病療養所介護員研修が国立療養所長島愛生園にて十二月四、五日の日程で全国から十一園二十三名の研修生が参加しました。

私はコロナ化のリモート研修へ参加した事がありました。現地開催での研修は初めてで、緊張と学ぶ事への期待でいっぱいでした。

研修一日目は、長島愛生園山本園長をはじめ、自治会長さん等七名の方からそれぞれ講義や演習がありました。超高齢となられた入所者の皆さんと関わる中で、介護員として何ができるのか、どんな役割を担っているのか改めて考える機会となりました。自治会長さ

んからの講義では、入所者から期待される介護員の役割についてお話があり「入所者は不自由であっても自分でできる事はやりたい、自分のやり方がある、入所者がこれがいいと言ったらそれでいい、押しつけられることに抵抗を感じる」と話されていました。ハンセン病療養所に勤務する介護員として、ハンセン病後遺症や合併症だけでなく、入所者の皆さんがこれまでどういう生き方をして、現在のどのような思いでいるかを理解した上で介護を提供する必要があります。入所者の皆さんの思いを知り、その思いを尊重し安心できる生活を支えていかなければならないと強く感

じました。

二日目の研修では、「入所者の生きがいや叶える生活支援」をメインテーマとし、「入所者の生きがいや叶えるために介護員として何が大切かを考える」「自部署の介護員と多職種連携において大切なことを明らかにする」「実践するための具体的な取り組み計画を立てる」ことを各グループごとに討議を行いました。各園での様々な支援上の悩みや取り組みについて話を聞く事ができ、超高齢化や認知症症状、ADL低下により自分の思いを伝える事ができない等、どの園でもケアの難しさを感じている事、介護員が多職種へ直接アプローチする機会は少なく、他の園の介護員からも「多職種の方からも積極的にもっと入所者を知ってほしい、普段の生活を知ってほしい」と意見がありました。

この二日間の研修に参加し、超高齢となった入所者の皆さんを支えていくために、まず

は入所者の皆さんのことを知り理解すること、どんな思いや希望がありどんな生きがいを持っているのか、信頼関係を構築しながら情報を引き出し、多職種で情報共有していく事が大切であると学びました。介護員、看護師、多職種が入所者一人ひとりの生活を支えるため、共通の目標に向かいチームとなり、お互いの専門性を尊重しながら、報告・連絡・相談を繰り返し返していく事が必要であり、その学びを自部署のスタッフに伝達し、実践していく事ができるよう、これからも、入所者様を中心にし入所者一人ひとりの思いを一番に考え支援していきたいと思えます。

最後になりますが、今回一緒に研修に参加した同僚に恵まれ、研修先での不安や学びを共有し、共に支え合う事ができました。

研修場所である長島愛生園の山本園長をはじめ職員の方々には、研修生一人ひとりに優しく丁寧に、いつも笑顔で接していただきまし

た。宿泊所での行き届いた心遣いに、参加して良かったと感謝の気持ちでいっぱいになりました。この研修での学びを生かし入所者の皆さんの思いを共有し多職種連携で支援していけるよう取り組んでいきます。



## 思い出

看護助手 星 寿子

この度、六十歳の節目にあたって原稿依頼を受けたものの何を書いていいのか上手に書く事ができるか不安に思いながら私の思い出を書かせていただきます。

私は平成三年八月に薬局へ薬剤助手（産休代替）として採用されました。当時は入所者様は三百人以上いました。薬局への出勤の時は更衣棟から治療棟を通っていくのですが、治療棟の前には毎朝多数の入所者様が並んでいて、見慣れない私を見るとジロジロ見られたり名前を聞かれたりした事もありました。その頃、私はまだ少し若かったのでとても恥ずかしく感じた事を思い出します。しだいに

顔も名前を覚えていただき話も出来るようになりました。

その後、縁があつて平成四年四月から福祉室の作業手として採用されました。職場は包帯再生の部屋でした。仕事内容は使用した包帯を消毒して洗濯場へ洗濯依頼し、洗濯した包帯を伸ばし物干し竿に干し、乾いた物から手で巻いていく仕事でした。初心者の私には上手に手の指を使って包帯を広げる事が難しく、緩くなったり形が悪い物になったりと苦労したものでした。でも先輩方の教えもあつて上達し、一人で足と手を使って巻く事が出来るようになりました。

一般風呂も仕事の一つでした。その頃は男風呂、女風呂も利用している人が多数いました。曜日によって午前・午後風呂、混浴があり、入浴する時間帯の顔ぶれはほぼ同じでした。風呂当番で行つてると沢山の入所者様と色々な話が出来て楽しく過ごす事ができました。

その他の仕事は除草作業や雪かき、旅行の付き添い、敬老会、宗教団体や県人会などの接待などでした。

一日中、雪かきや草取りした事も思い出されず。旅行の付き添いで朝六時出発の時もあり、ある入所者様が来る前には必ず集合しなければいけないルールがあり五時には楓会前に行っていました。入所者の方々も元気でしたね。(笑)

それから入所者様と一致団結して大運動会もしました。皆さん元気でグラウンドで一緒に走ったり応援したり踊ったりした事が懐かしく良い時間を過ごせて良かったと思います。

観桜カラオケ大会の出演依頼があり「新人は必ず歌わなければいけないだ」と先輩方から話され、強制的に出演させられた時の緊張感は今でも覚えています。

平成二十四年、看護課、総師長室へ看護助

新生園へ勤務して三十四年、思い出をあげれば切りがありません。入職当時の入所者の方々の顔が思い浮かびます。皆様一人一人にお世話になったおかげで今まで勤めることができ感謝の気持ちでいっぱいです。

入所者の皆様、職員の皆様、退職までまだ数年ありますので、今後とも宜しくお願い致します。



手として配置換えになり一年勤務し、翌年第二メーブルセンターへ配置換えとなりました。介護職で働く事は初めてのことで一年生スタートとなりました。以前福祉室で働いていたので入所者様から顔や名前を覚えていただったので励みとなりすごく助かりました。センターでは一緒にレクリエーションや料理をしたり散歩しながら栗拾い、無花果や柿を採ったりしました。柿を採ってきてみんなで皮を取り干し柿にして天ぷら作りした事もありました。笑話です。

その後、他のセンターへ配置換えになり、今まで関わったことのない入所者様にも出会い、色々勉強させていただきました。現在、入所者様の思いに寄り添い個別支援で外出したりと一緒に楽しませていただいています。

## ご挨拶

看護助手 澤野和子

入職から三ヶ月目に、この新生誌に挨拶文を掲載いただいた日から、早いもので二年が過ぎました。この度六十歳という節目を迎え、慌ただしく過ぎてきた新生園での毎日を振り返っているとこころです。

入所者の皆様にはたくさんの教えをいただきました。子育てに悩んでいた頃に、優しく励ましてくださった方。お茶の入れ方を丁寧に教えてくださった方。歌の上手な方は、行事の度に場を明るくしてください、俳句や川柳、和歌を詠まれる方の言葉には人生の深みを感じました。編み物の得意な方、料理上手な方、それぞれの得意なことを大切にしながら

ら、身の回りのことをひとつひとつ工夫と知恵で整えて暮らしておられる様子は、大きな学びとなりました。

朝の挨拶やジョークを交えた楽しい会話、レクリエーションで大笑いた時間、入所者の皆さんからいただいた「ありがとう」の言葉。一日の終わりの「お明日」「気をつけてお帰り下さい」の一言。日常の何気ない場面がいつも心の支えになっていました。

楽しい出来事がある日ばかりではなかったし、失敗で落ち込んだことも、ああすれば良かった、こうしたら良かったと後悔したことも、もう辞めてしまおうかと悩んだこともありました。それでも季節は巡り、日々を重ねるうちに、気が付けば十二年。笑いあり、涙あり。入所者の皆様や職員の皆様に助けられ支えられ、同じ時間を共有しながら過ごしてきたそんな毎日が、今では私にとってかけがえのない財産になっています。

最近「よっこいしょ」がすっかり口癖になり、階段よりもエレベーターに心惹かれ、時折痛む膝と腰をいたわる毎日ですが、心だけでなく軽やかに、あと数年、皆様と一緒に笑顔で過ごしていきたいと思っております。

新生園で出会ったすべての皆様に心より感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ここを去る最後の日まで、まだまだお世話になることも多いかと思いますが、どうぞよろしく願います。



# 栄養班だより



あけましておめでとうございます。  
令和7年は、お世話になりました。  
今年も栄養班をよろしくお願いいたします！



2025年12月25日の「クリスマス」の行事食です！  
選択食に登米市迫町佐沼にある「おかしの家 葉音」さんの  
「クリスマスケーキ」と「プリンアラモード」  
を提供いたしました。



## 【新生園 クリスマス献立】

- ・チキンとエビフライの盛り合わせ
- ・クリーム煮
- ・アボカドサラダ
- ・オニオンスープ



栄養班のクリスマスカードです →



# お正月行事



2026年1月1日～1月3日の間に  
お正月の行事食を提供いたしました。



↑ 2026年1月1日「元旦」の1日分の献立です。

1月7日の「七草」の日の献立です →

「七草粥」は、お正月で疲れた胃腸を  
休めると共に、無病息災を願いながら食べる  
古来から続く日本の風習です。



1月8日～1月9日のお正月行事で、  
「新春 しんせい茶房」を開催しました。

↓ たこ焼き、やわらか大福、ティラミス等を提供いたしました！



栄養班の今年の  
年賀カードです！



# 四コマまんが

作・太田 凜

